

日本天文学会 早川幸男基金による渡航報告書 *Science with ALMA; a new era for Astrophysics International Conference, 2006*

渡航先—マドリー（スペイン）

期 間—2006年11月12日-19日

私は、スペインの首都マドリーで5日間にわたって開催された“Science with ALMA; a new era for Astrophysics International Conference, 2006”に参加し、“Dense Clouds and Star Formation on Spiral Arm in M33—Deep CO and HCN observations in NGC604—”というタイトルでポスター発表を行ってきました。研究集会の内容は幅広く8分野（The project, Star formation, Proto-planets and substellar objects, Molecular clouds, Solar system, Evolved stars, Galaxies, High redshift galaxies and cosmology）に分かれ、参加者も250名余りが集まり、比較的大規模なものでした。

講演スケジュールは、9時から20時前までと長く、その代わりに昼休みが多く設けられていました。こういった時間の使い方はスペインの気風に合わせているのでしょう。そのため、われわれ日本人にはなじみのない時間配分でしたが、ポスターセッション用に設けられたコーヒープレイク以外の他に昼休みにも他の研究者らと話をすることができるといって意外とよかったと思います。

私の目標は、自分と同じ観測対象で論文を書いているらっしゃった C. Willson さん、N. Scoville さんに自分の研究について話を聞いてもらうことでした。国際研究集会は2度目でしたが、学生はほとんどおらず、偉い人ばかりだったので、初めは緊張して、上記の二人どころか、他の人にポスターの前に来てもらってその内容を紹介することができませんでした。しかし、以前から私が存じ

ている幸田さんに紹介してもらったことをきっかけに、念願の Willson さんに話を聞いてもらうことができました。Scoville さんにも自ら話しかけることができ、自分のポスターの説明を聞いてもらうことができました。私のつたない英語でも彼は熱心に耳を傾けてくれ、その後いくつかコメントをくれました。最後に私がこのポスターの内容に関する論文を今執筆中であることを伝えると「論文を楽しみにしているよ」とおっしゃってくれました。一方、東大センターの河野孝太郎さんや野辺山天文台の久野成夫さんが ASTE、野辺山45m電波望遠鏡の成果の一部として、私のポスター内容を口頭発表に交えてくださったおかげで、自ら進んで私のポスターを見に来ていただいた研究者もいらっしゃいました。日ごろお世話になっている方々に現地でもたいへんお世話になったおかげで、最終的には目標の2人以上の多くの研究者の方に自分の研究成果を報告できたと思っています。お話をできたみなさんとの議論を踏まえて、現在執筆中の論文をがんばって仕上げたいと思います。

以上のように、今回ポスター発表を行ったことで、他の研究者の意見を得られ、自分の研究を深めることができたり、国内外の研究者との交流を深めることができたりできました。最後になりましたが、この貴重な渡航を補助してくださいました早川基金および、その関係者のみなさまに、厚く御礼申し上げます。

三浦理絵

（東京大学理学系研究科天文学専攻/
国立天文台 ALMA 推進室）